

今月の聖句

『幸いなのは神の言葉を聞き、
それを守る人である。』

ルカによる福音書 第11章 28節

◎6月の予定

2日(日) 私立小学校情報フェア(横浜)

4日(火) 尿検査(二次)

4日(火)～6日(木) 転入体験学習①(小)

5日(水) 内科検診

7日(金) 観劇(中)

11日(火) 音楽会

12日(水) 一斉引き渡し訓練(小・中)

15日(土) キ同盟小学校教職員協議会

20日(木) 教務委員会

21日(金)～22日(土) 森のおとまり(小1～小3)

24日(月) 森のおとまり代休(小1～小3)

27日(木) 教職員協議会

◎7月の予定

2日(火)～4日(木) 期末試験(中)

6日(土) 学校説明会①

11日(木) 校内研修会

15日(月・祝) 神奈川全私学展
(パシフィコ横浜)

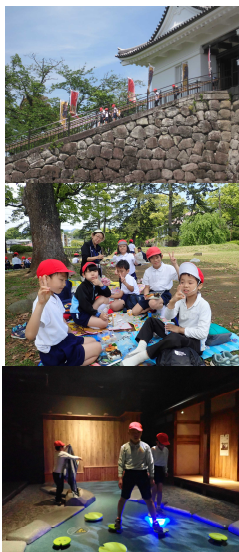


春の遠足 五月十日(金) 晴天
それぞれが充実した一日を過ごしました。

小学校1・2年(平塚総合公園)



小学校3・4年(小田原城址公園)



小学校5・6年(旧岩崎邸・上野動物園)

中学校(一夜城)



◎今月の行事から

◇音楽会 六月十一日(火)

第一部(小学校1年生から5年生)、第二部(小学校6年生から中学校3年生)に分かれて、日頃の音楽科授業の学習発表を行います。各学年が2曲ずつ行う発表は、合奏あり、合唱ありと学年の個性が光ります。子ども達の発表をどうぞお楽しみください。



◇一斉引き渡し訓練 六月十二日(水)

今年も大磯町全体で、地震および津波の発生を想定した訓練が行われます。緊急時のための大切な訓練ですので、ご家庭でもしっかりと話し合い、意識して訓練に取り組んでください。

◇森のおとまり 六月二十二日(金)～二十三日(土)

小学校1年生から3年生の学校での宿泊行事です。学校でのお泊りに子ども達はワクワクドキドキしています。3年生はいろいろな場面でみんなをリードし、会を盛り上げるよう頑張ります。保護者の方々に、も夕食作りなどのご協力をお願いいたします。また、小学校の教員全員で関わり、子ども達の活動を支えます。

キャンピングの思い出

学園長 小川 正 夫

私のキャンピングの最初の思い出は小学校四年生の頃だったと思います。勝浦の港近くにある日蓮上人ゆかりの誕生寺の本堂の印象や伝説を思い出します。勝浦港から鯛の浦に船出して見た大きな鯛の群れ、鱗を輝かせて餌に群がる躍動に驚いたことに始まります。

五・六年は滋賀県蒲生郡、彦根城の奥地の農村地帯に疎開、稲の苗を天秤で担ぐことがうまくできず、体が躍ってしまったこと、苗代に苗を植えるのに腰が痛くて伸ばせなかったこと、馬の餌を刻んだ手ごたえ、そして、太平洋戦争が始まり小学校という名が国民学校に変わったことなど、思い出は尽きません。軍国主義の色濃い私立の旧制中学校に進むと戦時中でしたので一・二年はキャンピングというより富士山麓での軍事教練が主でした。学年が進むと、仲の良い友達と出かけることが多く、山中湖畔のバンガロウで過ごし、湖の向こう岸迄行ってみようと泳いでいくと湖の中ほどで胸から足元まで水草が撫でていき、ぞっとした感触は今でも覚えています。そして富士山登頂、八合目を過ぎる頃からだんだん身体が重くなり、九合目を過ぎると自分の身体なのに、自然に歩くというより、自分の意志で足を前に踏み出していた感覚を覚えていきます。頂上に着くと、何故か元気が

出て、さつさと火口を一巡りした時、頂上から見渡した景色は今もはっきり覚えています。大学時代は、友人の父親が富士の浅間神社の神主さんだったこともあり、再び登頂。教員になってからも二度登頂しています。

この学校に勤めるようになって、残念ながら実現しなかった夢の一つは、子ども達に富士山に登る経験させたかったことです。

教員になってからは、御殿場の東山荘、清里の清泉寮、軽井沢みず山荘で毎年子ども達とキャンピング。オーストラリアのヌーサでクロスカントリーをしたこともありました。

キャンピングは机上の学習とは違った活き活きした子ども達の眼差の印象が残ります。

キャンピングといえばキャンピングファイヤー、バーベキューは楽しい定番の思い出になりましたが、私にとつて特に印象深く残っているのは、ブラジルとパラグアイの国境を流れるパラグアイ河上流のパンタナル、そしてブラジルのカンポグランジの大農場で過ごしたキャンピングで、その後の私の生き方に大きな示唆を与えてくれたように思います。

日本の夏休みは南半球では真冬で、空気が澄んでいる為か、満月がクリスタルのように美しく、クレーターの一つ一つが鮮やかで、月の周囲のクレーターのギザギザした凹凸がはっきりわかるようでした。

週末の午後、逞しい体格の男性が二人、周囲が三六〇度見通せるような大平原の小高い丘で上の周囲百メートルほどのなだらかなす

り鉢状の窪みの中に、直径三〇センチ程、長さが二メートル以上ある丸太を井桁に重ね、三メートル程の高さに積み上げていました。

私達を迎え、牧場で働く人達、友達が集うのですが、みんな揃わない夕方明るいうちから点火、見上げるほどの炎の勢いでした。

しばらくすると、何台もの車に分乗して駆け付けた人達が、「五、六〇キロも離れた先から明るい炎が周囲の景色を照らしているのが見え、車を運転していて目標になってとても心強かった」と興奮気味に語っていました。

友人の心遣いに感心し成程と思いつつ、ワインを酌み交わしながら、昼頃より焼きあげていた子牛の肉をほおばりながら、炎が照らす笑顔と話を交わし、ギタリストの演奏、ボッサノバの演奏と歌声に聞きほれながら、大自然と黄金色の炎、人の心の温かさ、軽快なラテンミュージックが私を三〇代の頃に引き戻してくれたような気がしていました。

しばらく燃え盛っていた炎も、やがて勢いが静まり、炎も収まり、真っ赤な炭火のような大きな山ができました。誰もが、静かに真ん中の真っ赤な熾火の様になった火を見つめながら、それぞれの思い出の中にありました。

私も還暦を過ぎた頃でしたので、誰に言うともなく、「私の人生で、私はちょうどこの辺りにいるのかな」と呟いていますと、陽焼けして、どこか童顔が残る年配の牧童頭が私の顔を見つめて「小川さん、肉は熾火でないと美味しく焼けないよ」と言ってくれました。

子供たちの「変化」と私たちの「観察」

教室とは別の所で子供たちを支える、

山口・清水両先生に、リレー原稿をお願いしました。

スクールカウンセラー 山口 滋美

緑の葉も大分色濃くなってきた、この6月。子どもたちにもいろいろな変化が見られます。「学校に行きたくない」という言葉が聞こえだすのもこの頃です。スタート時の張りつめた気持ちを癒し、リフレッシュするのにGWは絶好の機会である反面、学校生活のリズムがふと途切れる瞬間でもあります。そんな時、こどもは「ふと、我に返る」のではないのでしょうか。学校生活に小さな違和感を感じた子どももいたと思いますが、4月のひと月を夢中で走りぬけてきました。集団が苦手で、人の中に居ることがストレスになる子。なんとなく「みんなのようになくやれないなあ」と感じた子。勉強が難しいと不安になった子。「学校は楽しい」と無意識の自己暗示をかけ、表面的には元気にふるまっていた子。心の蓋がちよっぴり開いてしまうのが、この時期なのです。

「行き渋り」は周囲の大人には突然のように感じられ、過剰な心配や強硬手段に走りがちですが、子どもからすれば「当然の結果」でもあるのです。ただ、小さな違和感は言葉にするのがとても難しく、子ども自身も漠然

とした「嫌な気持ち」としかとらえられないことが多いのが現状です。理由を問い詰めれば、「くだから」と言う子もいますが、それが本当の理由かどうかは慎重に考える必要があります。

では、子どもが「学校に行きたくない」と言い出したら、どうしたらよいのでしょうか。「だるい」「くが痛い」という身体症状の訴えも含め、まずは「行きたくないんだね」と気持ちを受け止めます。「休ませる」か「行かせよう」か、迷うところですが、二者択一ではなく、少しゆるやかな対応が必要かと思います。子どもの話を共感的に聞きながら、「どの時間、どの場所、誰となら行けそうか」などを具体的に提案しながら話し合うことをおすすめします。どうしても「行きたくない」なら、「お母さんだけ行ってくるね」とか「先生と電話で話してみようか」など、要は学校とプツプツ切れないように工夫することが大事だと考えます。そして、「学校に行きたくない」という言葉を、「学校という社会と折り合いをつけよう」うまく付き合っていく方法」を考えるチャンスと受け止めたいものです。

養護教諭 清水 花葉

子どもの心身の健康をサポートするうえで、私が最も大切にしていることの一つに、日常の健康観察があります。『健康観察』と言っても、健康面はもちろんのこと、健康面以外の

様子も注意して見ているので、正確には日常の『観察』になります。

観察は、一人ひとりの特性、発達、年齢に応じたかかりやすい病気などを考慮しつつ、体や言動や対人関係に現れるサインに注意して行っています。

日常的に子どもを観察することで、体調不良だけでなく、悩み、ストレス、友人関係、いじめ、不登校などの様々な問題の早期発見・早期対応につなげることができます。

さらに日常の観察は、子どもが危機(災害・事件・事故など)やトラブルに直面したときに起こりうる心身の健康問題への対応にも役立ちます。例えば東日本大震災の後、子どもの様子が普段と異なるという事例が多くみられたようです。地震による混乱も残る中で、子どもの様子が普段と異なる、おかしいと早期に気づくためには、日常的な観察を行っておくことがとても重要となります。

私は職業上、様々な観察をする機会が多く、観察力を身につけるように日々精進しています。しかし、保護者の方の観察力には頭が下がります。私が気づいていない子どもの小さな小さな変化にも気づくことができるのは、一緒に生活されていて、一番近くで見ている保護者の方です。保護者の方の一言が参考となる場面も多々ありますので、子どもの様子で少しでも気になる事や、お気づきになる事があれば、連絡帳や電話などでお知らせください。

新しい場所へ——前へ——



『佐藤流』

事務長 佐藤 紀明

新しい元号とともに、事務長として新しい歩みが始まりました。あつという間の一か月半という感じです。学級担任でなく、授業も持たないので、当然、子ども達との関わりが減ってしまいました。当たり前であったことが無くなるのは寂しく感じることもあります。

五月、遠足の引率と校外学習で海に行く機会があり、今まで当たり前であったことが、とても新鮮で楽しく感じました。子ども達との関わりが減った分、保護者や業者、来校者との関わりが多くなりました。新しい仕事も増え、こちらも新鮮で楽しみながら仕事をしています。

頼む側から頼まれる側へ…。当然ですが、頼まれる方が大変です。やるべき仕事、次から次へと仕事が増えます。企業では当たり前のことかも知れませんが、これまでの私の人生の中では初めてのことばかりです。今までは大雑把にしていたことも、時間やスケジュールなど、きちんと管理するようになり性格が大きく変わりました（笑）。

ステパノだより四月号に、与えられた仕事は常に全力で取り組み、「できません」という言葉は使わないと書きました。今も継続中です。

私は、何事にも「楽しんでやる」、「その気になればできないことは何もない」と、自分自身に暗示をかけて取り組むようにしています。「自分には無限の可能性がある。絶対できる」と思い込むようにしています。潜在意識の中に取り込むと、自然とやる気がアップしたり、やらなければならないことが見つかったり、行動を起こしたりできるようになるからです。「できない」「無理かもしれない」と思う前に、とりあえずやってみて、「やりながら考える」ようにしています。

これが『佐藤流』です。

新しい環境で、一か月半しか経っていないので、何もできていない状態です。それでも、気持ちだけは前向きでいたいと思っています。楽しんで仕事をするほど、甘くはないですが、自分の持ち味が出せるように、自分らしく『佐藤流』で仕事をしていきたいと思っています。

国語で心がけていること

教諭 飯田 裕美

長年、家庭科を受け持っていますが、昨年度から小学校の国語も担当させて頂いております。

何分国語を教えるのは教育実習以来だったので、先輩方に多くのアドバイスを頂き、少しずつですが、授業が形になってきたように思います。

先輩方から受け継ぎ、私が授業で必ず行っていることが、「百マス書き取り」です。百マスは、ほぼ子どもからリクエストされた本を、視写・黙読・音読する。それを約五分間で行います。文章力や内容理解の向上を目指すことは勿論ですが、友達がリクエストした本に興味を持ち、色々な本に触れることができるのも良い機会です。

そして、盛り上がるのが「たけのこ読み」。これも先輩から教わった音読法の一つですが、気に入った一文を選び、自分の番が来たら立って読む。途切れたら、もう一度チャレンジという、最後まで読み終わるまで続くゲーム感覚の音読法です。子どもたちも大好きで、「またやりたい!」という声がよく出ます。

また、国語の単元で私が最も好きなのが「作文」です。ステパノっ子の書く作文は、その時に思っていること、感じていることを文章で素直に表現し、時には大爆笑、時には涙と、私の心を動かすとても素晴らしいものです。ステパノという環境の中で、ステパノっ子にしか書けない特別なものだと思っています。改めて国語を学び、その面白さを感じている中で、やはり子どもたちの存在はとて大いものです。今後も先輩方のアドバイスを活かし、楽しく、意欲的な授業になるよう努力し続けていきたいと思っています。

昨年英語の教員免許をとり、この春から晴れて英語教諭として教壇に立っています。思い返すとこの半生、英語から少しずれた経験が多いことに気づきます。高校でのホームステイはドイツ。大学で文化論に熱を入れ、バックパックス旅行はアジアや旧ソ連圏。外国絡みは多くとも、英語圏になかなか足が向いていません。

しかし日が経つにつれ、英語とは関係なさそうなこれらの経験が授業の支えになっていくことに気づきます。外国で実際に見て体験した話、外国文化の解説等：最近では、英語の授業で英語圏に限らず様々な文化を学ぶことになっていて、そうした話をする機会が少なくないのです。

「英語教諭になるんだったら、英語圏での経験をもっと積んでおけばよかったかな」というのは、この春ふと頭をよぎったことでした。ただ、人生の到達点がどこか知らない私たちには、一直線の近道ばかり行くことはなかなか難しいことのように感じます。むしろ同じところに立っていても、人それぞれ歩んできた道が違うからこそ、一人ひとりに豊かな個性が存在し、その話に思わず耳を傾けたくなるのかなとも思います。

「どうせ英語なんか将来使わない」という中学生のセリフは、昔からよく耳にします。たしかに仕事で英語を必要とする子ばかりではないかもしれませんが、しかしそれでも、彼らが一生懸命に英語を勉強したことは、直接的でなくとも、きっと彼らの人生を彩ってくれることと信じて、日々授業準備に励みます。一人ひとりの学び方の個性に合った多角的な授業を目指し、試行錯誤の毎日。教科書を黒板に投影した解説や、休み時間に発音を採点するアプリで一緒に遊ぶこと、子どもが主体的に学べるよう宿題の変更可能といった工夫は、少しずつ実を結び始めました。まだまだ模索は続きますが、「もつと宿題を増やしてほしい」「英語で日記を書くと、日本語とは違った話ができておもしろい！」といった声を聴くと、この先彼らが更にどんな成長をしていくのか、期待が膨らみます。

一歩一歩と懸命に足を進める時にわからなくとも、いつかふり返った時、「あの時期は本当に一生懸命勉強をしたね」と笑って思い返せる日々を、そこに意味はあったのだと思える毎日を、この一年子どもたちと作っていきたいと思います。

本年度より中学の音楽を担当させて頂くことになりました。それぞれの学年ごとに違った雰囲気をもっていて、その違いを毎回来しみながら音楽の授業を行っています。

授業を通して子どもたちと接していると、それぞれ授業に対する関わり方や考え方の違いが感じられます。授業中の発言や質問から、どんなことに興味を持っているか、また何を学ぼうとしているのか。それらに応えることの難しさを、あらためて実感します。

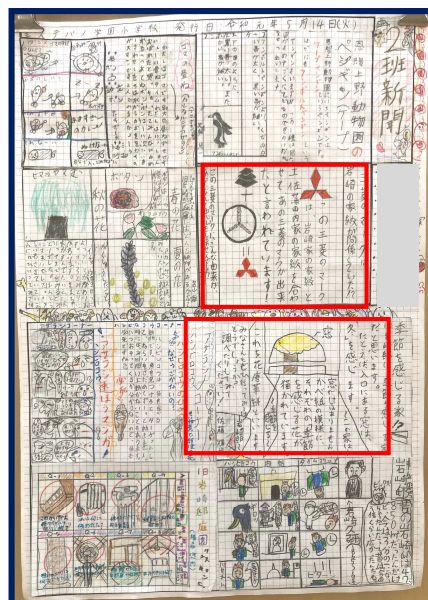
音楽は、指導する側の感性や性格が強くなる教科だと思っています。なので、楽しめる子と、苦手な子に大きな違いが生まれます。生徒たちが楽しく学べる教材を考える一方で、最低限覚えてほしい音楽知識も考えて授業を行わなければならない。それらのバランスの取り方がとても難しいところです。

私自身も小さかった時に勉強があまり好きではなかったように、やはり音楽も勉強の側面が大きすぎると途端に接しにくくなります。重厚なクラシック音楽や難しい日本の古典音楽、そしてそれらを理解するための音楽知識。中学生のうちはテストのために避けて通れないものです。

本来、音楽はメロディーやリズムから直感的に楽しむことができるもので、音楽の得意不得意、知識の有無の関係なしに関わることができるものです。子どもたちと私が音楽を通して接するときに一番楽しんでもらえるのは、流行りの音楽や、ゲームやアニメの音楽。また慣れ親しんだ童謡や唱歌の編曲、聖歌のリズムやテンポを変えての歌唱など、小難しい知識を取っ払ったものが多いです。明るい、または暗いメロディーを正反對のものにして演奏する、リズムやテンポを変えそれに反応して歌ってみる。どれも音楽の知識として理解しようとすると難しい事柄を、子どもたちは直感的にこなすことができます。

新たに受け持つようになった音楽の授業ではなるべく知識と直感がつながるような指導ができるように、今までの経験を活かして精進してまいりたいと思います。宜しくお願い致します。

五、六年生は、旧岩崎邸と上野恩賜動物園へ行ってきました。遠足で学んだことを新聞の形にまとめました。



三菱のマークは

岩崎家の家紋が関係していた！

この三菱のマークは、岩崎家の家紋と土佐藩山内家の家紋を合わせて、あの三菱のマークが出来たと言われています。この三菱のマークにこんな由来が、あったなんて思いもしませんでした！

季節を感じる家！

旧岩崎邸は、季節を感じる家だと思えます。例えば、入口にある窓は、「冬」を感じます。窓だけではありません。壁紙の模様にも、それぞれの「季節」を感じる花が描かれています。これを花唐革紙といいます。

(SA)

壁紙

春の遠足で旧岩崎邸

ぼくは、旧岩崎邸に行つて注目したのは、壁紙でした。金と水色のもようがすごくきれいでした。この壁紙のつくり方もすごかったのでおしえましょう。「①和紙を合わせる。②箔をはる。③うちこみ。④ワニスをぬる。⑤色をぬる。」でした。皆さんもぜひ旧岩崎邸に行つてみて下さい。(HR)

ハシビロコウ

動かないことで有名なハシビロコウ

ふだんは、動かないはずのハシビロコウが動いているところを見てしまいました。羽をバタバタしていたり、あくびをしているように、口ばしを大きくひらいたりしていました。ビックリです！動かないことで有名なハシビロコウが…。(KS)



「ステパノかるた」その2



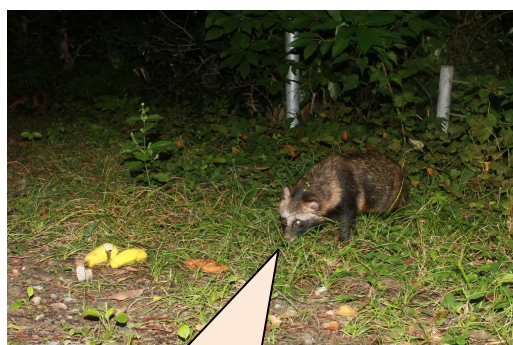
ねるんだよ

みんなといっしょ
森のおとまり

よるにはね

タヌキがでるよ

ロング坂



僕は
赤外線センサーで
撮影されてしまっ
たタヌキで～す。



「中学校」―委員会の活動紹介―中学生全員が委員会に所属し、様々な活動を行っています。その内容を各委員長から紹介してもらいます。

＜代表委員会＞

代表委員会は、主に生徒会主催行事の企画進行や、生徒総会の運営などを行っています。活動日は毎週火曜日で、ポスター掲示や話し合いなどを行っています。代表委員は立候補したメンバーばかりです。進んで積極的に取り組んでいきたいと思っています。(KJ)

＜飼育委員会＞

私達は当番を決め、毎朝飼育小屋の掃除をしています。現在、ウサギが四羽、アイガモ二羽、アローカナという品種の鶏が一羽います。ブラシで床をこすったり、池の水の入れ替えをしたり、餌をやったりしています。可愛い動物たちのためなら、掃除も楽しく感じられます。(FJ)

＜放送委員会＞

放送委員会が行う仕事は、主に三つです。①月、水、金曜日の朝の放送。②水曜日の礼拝の放送機器準備。③水、金曜日のお昼の放送。これらに加えて、火曜日の朝に放送委員が集まり、お昼の放送の企画の立案と準備を行っています。放送委員会は、活動する日が多いので、忙しいです。(MA)

＜図書委員会＞

図書委員会では、曜日ごとに当番を決めて、お昼の休み時間に本の貸し出しをしています。

場所は遠くなりましたが、新図書室に足を運んでもらおうと、オリジナルの読書ノートを作ったり、水曜日の朝も開館しています。「この本お勧めフォト」も企画中です。(顧問)

＜保健委員会＞

保健委員会では、衛生検査やハンドソープの補充などを行っています。衛生検査はハンカチ、ちり紙、爪のチェックを行っています。優秀な人には景品をあげています。私は小5からずっと保健委員をしていて、今年で最後なので、しっかりとやれたらいいなと思っています。(SN)

＜環境美化委員会＞

環境美化委員会の活動内容は、毎週木曜日朝、植物への水やり、畑の整備などです。昨年「憩いの広場」を作り、先日は芝の種をまきました。環境美化は手も靴も汚れてしまう仕事ですが、終わった後の達成感は、他の委員会では味わえないものです。(AS)

＜新聞委員会＞

新聞委員会の活動内容は、校内新聞「STEPHEN WALKER」の作成、発行です。二カ月に一回の発行を心がけています。内容は、先生方や新人生へのインタビューや、行事のコーナーの記事や、四コマ漫画も考えています。毎週水曜日の朝、七時四十分から、情報処理室で記事を書いたり、編集作業をしたりしています。みんなが読んで楽しめる新聞を作りたいと思います。(IN)

連載「ステパノ散歩」―私の好きな場所―

森の中の中2教室

森の中の中2教室。そこは二面の壁の代わりにガラスが貼られた教室です。ロング坂に登りきると、そこにあります。歴代の中2の先輩たち、そして僕たちのクラスの一年間の思い出がたくさんつまっています。

僕がこの教室に入ってからすぐの感想は、ガラス張りで地震がきた時に怖いなあ、というものです。しかし、東日本大震災の時もびくともせず、帰宅できなかった先輩たちが泊ったのが、この教室でした。次の印象は、木、木、木でした。柱は木、床も木、骨組みも木。まさにすべて木で作られた教室です。

ドアの調子が悪くなり、修理が終わるまでの一週間大変だったこと、二学期にはなぜか黒板の板書が消えづらくなって困ったこと、思い出は色々ですが、

ここが僕が一番好きな場所です。今は隣の中3教室。どんな思い出ができるか…。楽しみでなりません。

(中3 MT)

次回もお楽しみに。





潜伏キリシタンの遺物が語りかけること(二)

先月号では安土桃山時代の信仰画について取り上げました。澤田先生は一九三六年から四〇年かけて、九州の島々を巡り歩いて潜伏キリシタンの遺物一〇〇〇余点(現在八七四点を集めました。「多くの方々の為にキリシタン遺物のすべてをお捧げし、この世にまれない」と書きスペインに旅立ち、一カ月後に亡くなっています。澤田先生の二つの文章から、強い思いをうかがい知ることができます。

一つはこの「キリシタン記念館建設趣意書」の文章です。



「子供達

を守り育てる仕事の中で、私は幾度これらの遺物の前で祈り、力づけられたか分かりません。これらの遺物を集めたチャペルは私の『かけこみ寺』でもありました。失望と悲嘆と涙と怒りの時、このかけこみ寺は私に光と希望と、そして忍耐を与えてくれました。」
遺物を預かるときに澤田先生は水行をして

身を清めていたと、泉脇茂太さんへの取材で伺ったのを思い出しました。

西田館長は、澤田先生には三つの業績があることを忘れてはならないと言います。福祉事業(エリザベス・サンダース・ホーム)、教育事業(聖ステパノ学園)、そして文化(澤田美喜記念館)です。澤田先生は、記念館がキリストを信じる人たちの「魂の療養所」になることを願っていました。

もう一つは、毎日中学生新聞に掲載されたものです。

「戦争を知らない自由な現代の子どもたちが『禁教』の遺物を見ることによって、信仰、生きる尊さについて何か一つでも感じることがあれば：」

これは後世を生きる私たちへの遺言ではないでしょうか。

「子ども達には最高のものを」と小川先生はいつも仰います。ステパノは、こんなに身近に、まさに最高に貴重な文化的遺産がある学校です。西田館長をはじめ何人もの研究者が、澤田先生が集

めたキリシタン遺物の出自や来歴を調査しています。

今後あらたな発見がきつとあることでしょう。ぜひ皆さんも記念館に足をお運びください。



STEPHEN'S NEWS

【表彰】

ROYAL ACADEMY OF DANCE
Intermediate Foundation (Ballet)
N・Y MERIT

ロイヤルアカデミーオブダンス
インターメディエイト・ファウンデーション
(バレエ)

中3 N・Y 合格

【2019年度第1回学校説明会のお知らせ】

日時：7月6日(土) 10:00～
場所：本学園 海見えるホールにて
是非足をお運びください。

【編集後記】

新学期が始まり早くも二カ月が過ぎ、一学期も後半に入ろうとしています。子ども達、教職員がそれぞれ新たに与えられた場や役割を得て、前向きに頑張っている様子をお伝えできたでしょうか。
後半戦に向け、しっかり体調を整えていきましょう。(さ)



代表者 学園長 小川 正夫

(発行者) ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298

FAX 0463-61-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇一九年六月五日(水)発行 第233号